

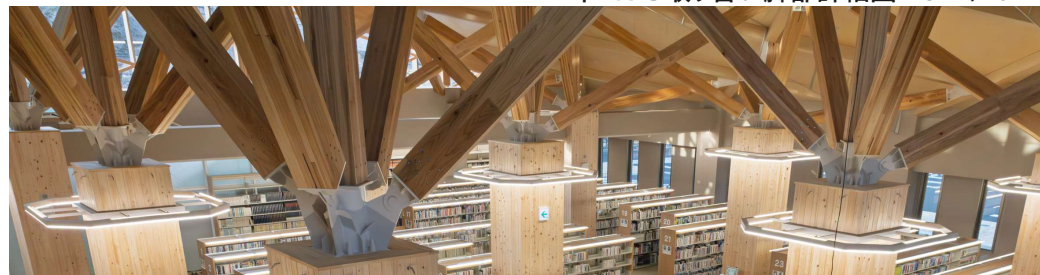
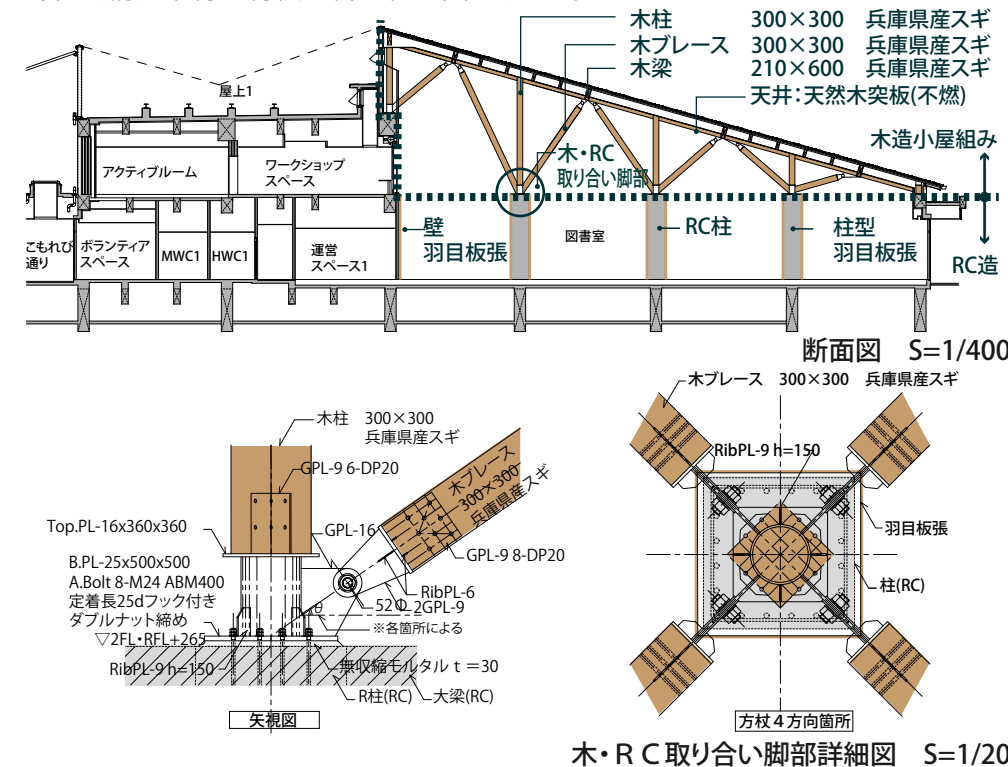
多可町生涯学習まちづくりプラザ「あすみる(Asmile)」



木造小屋組みの図書館

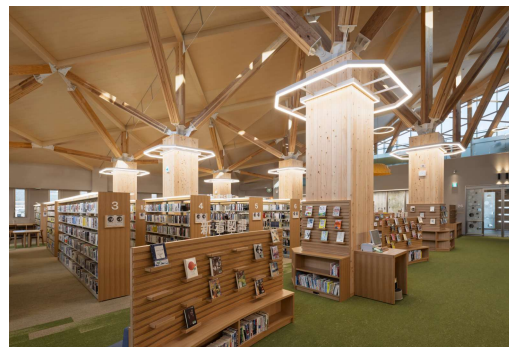
■木造小屋組みの図書館

杉原川の氾濫等の配慮から主構造はRC造としたが多可町の積極的な木材利用の声に応え、図書館屋根は木造小屋組みを採用した。多可町の豊かな自然から着想を得て、独立RC柱からそびえる木柱や放射状に架けた木ブレースを樹木に見立て、またRC柱や内装も木で仕上げ、森の中にある開放的な「学びの広場」とした。木ブレースは木梁の中央に対となる形で配置し、木梁の長期支持材となる方杖材としての役割も兼用することにより、梁の曲げスパンを短くすることで屋根梁せいを抑え、構造木材の材積の合理化を図っている。



図書館 木柱・木梁・木ブレース

■兵庫県産スギによる木造小屋組み



木質感のある図書館ブラウジングスペース



開放的な2階ホール

■兵庫県産ヒノキによる木・アルミ複合カーテンウォール



風除室1 自動ドアと杉原紙アート



南側の明るいキッズスペース

【プロジェクト概要】

木の温かみ漂う多世代交流のまちづくり拠点

あらゆる世代が互いに学びあい、教えあい、人がつながるまちを目指し、多様性を受け入れる「まちづくり」の拠点となる図書館と公民館の複合施設である。「天たかく 元気ひろがる 美しいまち 多可」の基本理念の基に、子ども子育て・学びと健康エリアに既存施設(中コミュニティプラザと多可町図書館)の機能更新も兼ねて整備した。

周辺施設との連携や回遊性の生まれる建物配置とし、シンボルストリートとなる「みちひろば」を設け、多世代交流を紡ぎだす土地利用を目指した。豊かな自然に包まれた多可町にふさわしい多世代交流の集いの場として、木の温かみが施設全体にひろがる計画としている。

設計時は「まちブライいいね!ドラフト会議」と称した「まちの未来とオシを探す住民ワークショップ」を行った。多可町在住の中学生からご年配の方までのあらゆる世代が参加され、まちプラの「いいね!ポイント」と「ここでこう過ごしたい・活動したい」について、各々のオリジナルなアイデアを出し合った。また、多可町のやまなみを模した外観の色はワークショップの町民投票により決定した。町民主体のワークショップが作り上げた「まちづくり」の拠点はあらゆる世代が愛着を持って集い、つながる場となる。



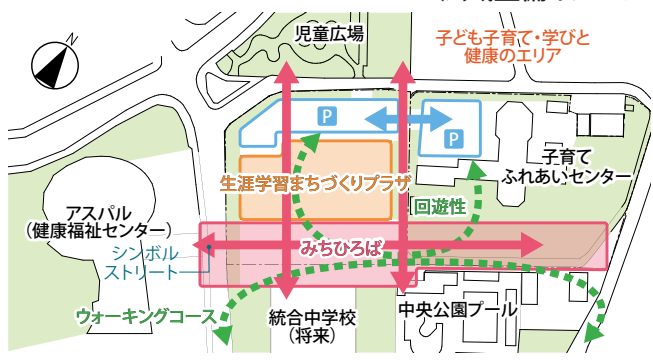
住民ワークショップの様子



やまなみと呼応する外観デザイン



広域整備イメージ



周辺施設と「みちひろば」の関係

【建築概要】

主要用途 : 図書館
構造・規模 : 地上2階建て
鉄筋コンクリート造
一部木造
最高高さ : 13.60m
敷地面積 : 6,766.90㎡
建築面積 : 2,478.32㎡
床面積 : 2,988.03㎡
建蔽率 : 36.63%
容積率 : 43.60%

【主な木材使用箇所】

- 1) 兵庫県産スギ
・木柱、木梁、木ブレース
- 2) 兵庫県産ヒノキ
・木・アルミ複合スクリーン
- 3) 多可町産材ヒノキ
・屋内階段部圧縮フローリング
・大会議室チェック柄格子壁
・交流スペース天井天然木ルーバー
・伐採樹木を活用した家具

施設全体にひろがる多可町産木材

■主伐再造林を活用した内装材(①・②・④)

「ふるさと文化財の森(文化庁)」に認定された本町北部の「杉原川源流の森」周辺は、県内最古の植林記録が残っており、それらの森林から切り出される木材をブランド木材として利活用を進めている。森林環境贈与税を活用した主伐再造林多可町モデル事業より町有林のヒノキを内装材として活用。



実施区域図と標準地写真

①大会議室のチェック柄格子壁



木質感のある大会議室

地域の活動や講習会等が行われる大会議室の壁面には多可町のシンボルであるタカタータンを連想する立体感のあるチェック柄の格子壁とし、多可町民に愛される場とした。



- 縦棧 25×25 (ヒノキ)
- 横棧 25×23 (ヒノキ)
- 受棧 縦横共 90×25 (ヒノキ)

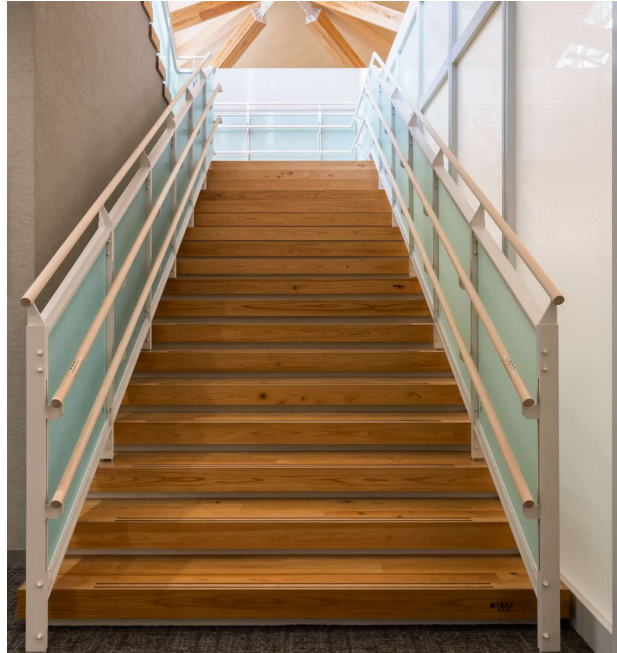
②木のあたたかみを建物全体に展開



交流スペース・壁羽目板・天井準不燃ルーバー



図書館 柱型羽目板



階段 踏板

■計画地伐採樹木を再生活用した家具(③)

計画地にてやむなく伐採した樹木(ケヤキ・サクラ)を家具として再生活用。SDGs未来都市に選定された多可町ブランドの創出と発信強化として、脱炭素・循環型社会への貢献を図る。



【伐採】丸太材(ケヤキ) 【伐採材】板材(ケヤキ・サクラ)



【乾燥】天然乾燥



ひょうご「たかの森」ブランドのロゴマーク



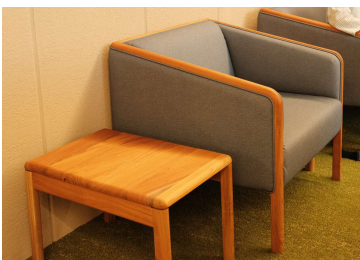
③伐採樹木の再利用



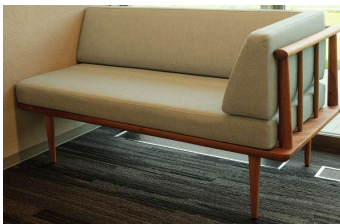
一枚板テーブル(ケヤキ)



アームチェア(ケヤキ)



サイドテーブル・ソファ(ケヤキ)



カウチ(サクラ)

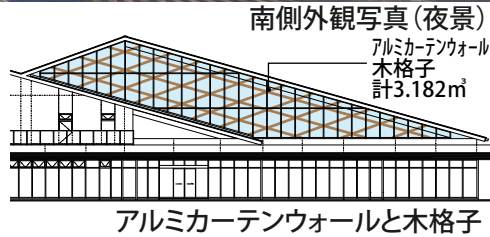


ベンチ(サクラ)

④外部に表出する木の表情



カーテンのように連なる山並みを模し、まちなみや緑豊かな周辺環境と調和した安心感のある外観デザインとする。日が暮れると図書館上部のガラス面からあふれるやわらかな光は「まちづくりの拠点」としてまちを明るく照らす。



南側外観写真(夜景)

アルミカーテンウォール
木格子
計3.182㎡

アルミカーテンウォールと木格子

■地域材が迎えるまちの賑わい

多可町産木材の内装材や家具により居心地の良い空間を実現。木の温もりが漂う空間は日常においてもイベント時でも、あらゆる世代が自然に集まる場となる。



地域イベント「あすみるEXPO2025」の様子



日常の様子

地域活動があふれ出す仕掛けとして「杉原紙」創作和紙アートをガラス面に展開することにより、地域の宝である「杉原紙」の伝統文化を次世代へ継承を図る。



木と和紙で来館者をおもてなし



「杉原紙」創作和紙